



お母さんの命を守る キャンペーン

2009年7月31日(金)発行
国連人口基金東京事務所
キャンペーンリリース No. 6

国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所は、2009年6月22日から2010年7月11日の「世界人口デー」までの約1年間、「お母さんの命を守るキャンペーン」を日本国内で実施しています。

第24回日本国際保健医療学会学術大会 [仙台] ～ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成と お母さんの健康について考える～

8月5～6日に、東北大学にて第24回日本国際保健医療学会学術大会が開催されます。

国際社会は、2000年に開催された国連ミレニアムサミットにおいて、2015年までに達成すべき8つの目標であるミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals, MDGs) を採択し、開発に関する国際社会の共通の枠組みとしました。MDGsの達成のためには、保健関連の目標4,5,6 (子どもの健康、お母さんの健康、感染症対策)、中でも最も進捗が遅れている目標5「妊産婦の健康の改善」の実現が鍵となるとされています。

本学会では、このMDGsを取り上げ、国連人口基金東京事務所長の池上も参加し、世界で妊産婦が置かれている現状や、目標達成に向けた国際社会の取組みについて解説します。取材をご希望の方は、下記連絡先までご連絡ください。(学会に関するお問い合わせは、学会事務局へ TEL: 022-717-8199、jaih@tuih.jp)

○ 市民公開講座「国連と市民の連携を考える – 国連ミレニアム開発目標の実現をめざして」

日時: 8月4日(火) 17時～19時 (一般公開・参加費無料)

会場: せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

○ シンポジウム「MDGs 実現に向けた戦略的支援のあり方を探る」

日時: 8月5日(水) 9時～10時45分 (学会参加申込みが必要)

会場: 学会 A 会場 (東北大学医学部 長陵会館 2F 記念ホール)

近年、宮城県でも地域の産婦人科医の不足が問題になっています。例えば宮城県で最も広い栗原市では、たった1人の産婦人科医が年に350件のお産を扱っています。また、産科医療が限られているため、開業医が妊婦健診を、大病院が分娩を担当するセミオープンシステムを導入した仙台市では、人気開業医の多くが数カ月先まで予約で埋まっているといえます。(河北新報社「お産 SOS」ホームページ、2007より)

開発途上国では、人材不足がお母さんの命を奪っています。この問題への取り組みとして、国連人口基金は、例えばスーダンで助産師学校を運営しているほか、エチオピアでは基礎的な緊急産科ケアを実施できるよう保健医療従事者を訓練するコースを開発するなど、医師以外の保健医療従事者 (NPCs) の育成に力をいれています。(詳細は <http://www.unfpa.or.jp/media/md2009/md0908.html>)

【お問い合わせ】 国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所 (担当: 山本・上野)

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル 7 階

TEL: 03-5467-4684 / FAX: 03-5467-8556 / E-mail: tokyo.office@unfpa.or.jp / www.unfpa.or.jp



プログラム詳細（8月4、5日）

（敬称略・発表順）

○ 市民公開講座「国連と市民の連携を考える－国連ミレニアム開発目標の実現をめざして」

（一般公開・参加費無料）

日時： **8月4日（火）** 17時～19時

会場： せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

司会： 山本 秀樹（岡山大学大学院環境学研究科国際保健学分野准教授）
大村 昌枝（宮城県国際交流協会）

パネリスト： <目標4：乳幼児死亡率の削減>

國井 修（ユニセフミャンマー国事務所保健栄養部長）

新井 俊郎（世界の子どもにワクチンを日本委員会常務理事）

<目標5：妊産婦の健康の改善>

池上 清子（国連人口基金東京事務所長）

<目標6：HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止>

ムハマッド・マフムード・アフザル（WHO 神戸センタープログラム調整官）

伊藤 高明（住友化学ベクターコントロール事業部技術開発部主任）

コメンテーター： 金森 サヤ子（外務省国際協力局 多国間協力課）

背景： 保健関連の目標4, 5, 6（子どもの健康、お母さんの健康、感染症対策）に向けての国際機関やNGO、企業などの具体的な取り組みから、日本のわたしたちにできることは何かを考える。

○ シンポジウム「MDGs 実現に向けた戦略的支援のあり方を探る」

（当日報道受付にて登録してください。詳細は学会事務局へ TEL：022-717-8199、jaih@tuih.jp）

日時： **8月5日（水）** 9：00～10：45

会場： 学会A会場（東北大学医学部 民陵会館 2F 記念ホール）

進行・座長： 池上 清子（国連人口基金東京事務所長）

パネリスト： **井上 肇（厚生労働省国際課国際協力室長）**

「MDGs と日本の役割」

渋谷 健司（東京大学医学部国際保健政策学教授）

「データはすべてお見通し：MDGs 達成のための戦略的エビデンスの活用」

國井 修（ユニセフミャンマー事務所保健栄養部長）

「MDGs 実現に向けた戦略的援助のあり方」

池上 清子（国連人口基金東京事務所長）

「MDGs と評価」

背景： MDGs の達成に向けて、保健関連の開発目標を実現するためにどのような戦略的支援が望ましいのか、そのために日本がとるべき必要な政策と実践は何か。具体例を挙げながら、それぞれの課題の解決に向けた状況分析と改善策を指摘し、日本の支援のあり方考える。

【お問い合わせ】 国連人口基金（UNFPA）東京事務所（担当：山本・上野）

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル7階

TEL：03-5467-4684 / FAX：03-5467-8556 / E-mail：tokyo.office@unfpa.or.jp / www.unfpa.or.jp